経済学研究科

Ⅰ　教育水準　.....　教育 11-2

Ⅱ　質の向上度　.....　教育 11-5

Ⅰ　教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1.　教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、２専攻８大講座で編成（平成 20 年度より経済学専攻１専攻に改組予定）され、定員充足率（大学院博士前期・後期課程合計 1.16）及び専任教員一名当たり学生数（前期課程 2.90 名、後期課程 1.66 名）から適切な人員配置とみることができ、さらに人事に当たっては、「経済学研究科教員選考基準」を定め、研究業績・教育経験の他、博士号取得を条件とするなど、厳格で偏りのない採用を組織的に行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、将来計画・実施・事後評価の観点から３委員会による組織的な取組を実施するとともに、FD 小委員会により、講義内容・評価基準の統一、シラバスの相互チェック、授業評価アンケート結果の共有などが図られるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2.　教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、大学院博士前期課程では、学生や社会のニーズに対応した、研究者養成を目的とする本科コース、高度専門職業人養成を目的とする専修コース及び社会人コースが設けられ、それぞれの教育目標に合わせた課程編成が行われるなどの特徴が見られる。大学院博士後期課程では、厳しい博士論文提出要件を設けるとともに、専修・社会人コースからの進学には編入試験制度を設けるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、本科コースでは、学外研究者の研究に触れる機会を集中講義・ミニ講義他の形態で積極的に創出し、学生の要請に応えている。

専修コース、社会人コースでは、より高度で実践的な経済分析能力を求める社会的要請に応えるために、日本経済研究センターとの連携によるスキルアップ・プログラムが開設されており、それぞれの要請に高度な内容で応えるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準を上回る

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義と少人数による演習の組合せで授業形態が構成され、それぞれの役割が明確であるとともに、必修科目を補完する演習の開講、論文指導における個別指導と複数教員による共同指導の徹底、スキルアップ・プログラムにおける共同レポート作成など、より高い水準を目指すための指導が行われている。シラバスにおける授業評価フィードバックの記載やウェブサイト上での公開の他、ティーチング・アシスタント（TA）の配置による学習支援等の優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、シラバスでは、講義内容、成績評価の方法の他、履修前後の関連科目や授業評価に基づく改善を表示するなど、自主学習の便宜が図られている。施設面では、学生の専用スペースと社会科学系図書館が土日も利用可能であり、ティーチング・アシスタント（TA）の配置（38 名）と相まって自主的学習には十分な環境にあることに加えて、研究へのインセンティブとして賞の授与（査読付き論文への掲載に対して『六甲台研究奨励賞』16 名、優れた博士論文執筆の留学生を対象とする『日本経済論文賞』１名）を用意するなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、大学院博士前期課程では、約 80%の学生が標準年限で修了し、スキルアップ・プログラムにおいても 12 名が修了するなど、順調な状況にある。大学院博士後期課程では、課程博士取得者数（13 名）・標準年限以内博士取得者数（４名）、査読付学術雑誌掲載論文数（16 件）、六甲フォーラム報告数（19 件）など、高い質的水準にあるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、大学院博士前期課程修了者（平成 19 年度）アンケートにおいて、社会人・専修コースでの履修指導に課題が残されているものの、専門知識を求めて入学し、期待した効果が得られたなど肯定的評価が大部分を占めており、スキルアップ・プログラム受講者も高い満足度を示している。大学院博士後期課程修了者アンケート（同）でも、研究指導、複数教員の指導・助言、大学院生間のディスカッション、六甲フォーラムなど経済学研究科が提供するメニューに対する高い評価が見られるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士前期課程修了者のうち、約 30%が大学院博士後期課程に進学し、これ以外の修了者の多くは高度専門職業人として製造業、金融業を中心に多様な産業に就職しており、また、後期修了者のほとんどが大学・研究機関に就職した実績を上げている上に、留学生も帰国後、同様の実績にあるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、修了生を複数名採用した６大学へのアンケート結果では、「優れている」、または肯定的な評価が４大学以上となる項目が９項目中６項目あり、教育・研究で優れた貢献をしており、学部運営にも協力的な貢献が伺えるなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と

判断される。

II　質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は３件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。